

市長記者会見記録

日時：2021年9月28日（火）14時00分～14時16分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いをいたします。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【東京（幹事社）】 幹事社、東京新聞です。よろしくお願いいたします。

1つはコロナに関してですけれども、第5波が急速に落ち着いたように見えますけれども、一方で、この夏、自宅療養の方が大変増えたりとか、現役世代の方たちの亡くなる方も出たりということで、課題も現状、見えてきたかと思うんですけれども、改めて第5波の現状と、次の波が来るかもしれないということで、課題についてどのように考えていらっしゃるか伺えますか。

【市長】 そうですね。まず、第5波のときの病床の必要とする数というのが本当に物すごい勢いで一気に来たもんですから、そういった意味では、病床確保というのに非常に苦労いたしました。今後の課題だと思うんですが、第6波のときに一般病床、一般医療とコロナの医療を両立させていくために、柔軟な病床調整というのがもっとより柔軟にできるように、これからも医療機関としっかりと情報交換をしていかなくちやいけないなと思っています。

この1年半の間にいろいろなことが分かってきて、ワクチン接種も進みましたし、治療法というの、少しずつですが、進んできているということは非常に歓迎すべき点だと思いますが、まだまだこの闘いというのは続くと思いますので、これまでから分かってきたことをさらに検証して、次につなげていきたいと思っています。

《ヘイトスピーチ関連について》

【東京（幹事社）】 分かりました。あともう一つ、ヘイトスピーチ対策についてですけれども、先週の土曜日、日の丸街宣倶楽部の渡辺代表が逮捕されたという報道が出

て、実際そういうことが起きたということなんですけれども、差別的な部分というのはいずれ暴力と結びつくというのは、改めて私としては感じているところではあるんですけれども、一方で、このところ、週末の街宣も増えている状況もあったということで、改めて今回の状況を受けて、市長としての受け止めというか、どのように感じてもらいたいのかをお伺いできますでしょうか。

【市長】 そうですね。ちょっと安易な分析をすると、それはそれでまたいろいろな反応が返ってくるので、少し慎重でなければならないと思いますが、政治状況というか、市長選挙だとか、衆議院選挙だとか、市民の皆さんの政治に対する注目が高まっているときに活動をするという傾向ももしかしたらあるのかもしれないなどは思っています。あんまり臆測でもって話をしてはいけないと思いますので、詳しい論評は避けたいと思います。

【東京（幹事社）】 分かりました。ただ、一方で、現状、今、そういう意味では調べのほうは続けられていくということで、その結果がどうなるかということなんですけれども、片や、街宣を支える人たちというのがいて、これからも同じような混乱はまた起こり得るかもしれないですね。それで、それに対抗する方たちも一定いらっしゃるという中で、なかなか条例の運用が難しいということもこの間言われてきましたけれども、条例に抵触しないまでも、不適切な言動はあるということを繰り返し続けられてきたというのが、この条例施行から1年たって続いている状況かと思うんですけれども、こういう現状について、メッセージというか、市長としての願いというか、そういったものがあったらお伺いできませんか。

【市長】 附帯決議にもありますように、条例に抵触しないとかということであっても、差別的な言動というのは決して許されるものではないということはもうはっきり言っておきたいと思えますし、これまでもそうですし、これからもそう。そして、条例というのをしっかり適切に運用していくということだと思います。それは厳格にやっていくということが、条例の信頼性、それから安定というものにつながっていくのだと私は信じています。

【東京（幹事社）】 そういう意味では、街宣についても、これからも今までと同様にというか、見続けていくというか、そういうふうに市としても。

【市長】 そうですね。

【東京（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

《緊急事態宣言解除後の対応について》

【共同（幹事社）】 幹事社、共同通信です。緊急事態宣言が30日で全面解除される

予定で、段階的に行動制限が緩和されていきますが、川崎市でも新規感染者数というのはどんどん減少傾向にあると思います。ただ、東京に近いという地理的な面もありまして、リバウンドというものも懸念されると思うんですが、感染対策の緩み、一方で、経済活動の再開という期待感もあると思います。両面について、影響をどうお考えでしょうか。

【市長】 そうですね。ちょっと今の状況というものをどういうふうに分析したらいいのかというのは、僕はもう少し専門家の意見を聞きたいと思っているんですが、人流自体はそれほど下がっていない中で、感染状況というのは急激に減ってきていると。それは、ワクチン接種効果ということもあるんでしょうけれども、あるいは人の流れは減っていないけれども、一つ一つの細かな行動というのが、皆さん、感染対策をしっかりやっていただいていることなのか、一体どういうことが減っていることにつながっているのかというのを、雰囲気ではなく、しっかりと分析をして、それをやはり市民の皆さんに正しくお伝えしていくということが今後の対策につながるのだと思いますので、その辺りをやはり専門家の方の意見というものをしっかり聞いて生かしていきたい、お伝えしていきたいと思います。

それと、経済的な影響というのは、飲食店だけじゃなくて、まつわる場所、卸のところとかもそうですし、ホテルですとか、そういったところ、本当に大きなイベントのところから出ていますので、そういった意味では、緊急事態宣言が解除されるということは歓迎したいと思いますが、一方で、先ほど申し上げたとおり、何がよくて感染を抑えられているのかということ、ある程度科学的に分からないと、何となくまた雰囲気で、もういけるんじゃないかといってみんなが気を緩ましてしまうと、また第6波が早く、大きく波が来てしまうという危険性があるので、そこは事業者の皆さんも、私も聞いていますが、そっちの第6波のことを非常に恐れているので、皆さん、慎重にいかれるのではないかなと思っています。

【共同（幹事社）】 どうしても全面解除という言葉が先走ってしまって、段階的なのところがなかなか、コロナ前にすぐ戻ってしまうのではないかと誤ったメッセージに捉えられる危険性も高いと思うんですけれども、市長としては、市民の皆様に対してどのように工夫して、適切なメッセージというのを伝えていきたいとお考えでしょうか。

【市長】 そうですね。今日、政府での対応策が決まり、神奈川県では本部会議が今日夕方あると聞いていますので、そうすると、飲食店でいうと、9時までだとか、アルコールは8時までということで、全面解除という形には皆さん気持ち的にもならな

いでしょうし、事業者側もそういう形に捉えられていると思います。ですから、引き続き警戒心を持って行動していきましょうということは皆さんも十分御承知だと思いますし、市からのメッセージもそれは受けて発信していきたいと思います。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

各社さんお願いします。

《選挙日程について》

【読売】 読売新聞です。市長選の日程についてお尋ねします。昨日、市選管が日程を決めるシミュレーションを出してくれたんですけれども、10月8日までに日程を決めたいということで、一方で、国政のほうでは明日、自民党の総裁選が行われて、そろそろ衆院選の日程も近く決まってくれるんじゃないかなというところで、そのタイミングで改めてお伺いしたいんですが、国政のほうは地方選に配慮してくれることなんてないんですけれども、同日選になるかならないかでやっぱり経費も1億ぐらい違ってきってしまうということ、あと、人繰り、労力などを踏まえて、どうなるのが望ましいか、出馬される御本人でもあるというのものもあるんですけれども、市政、財政を見られる市長としてはどうなるのが望ましいのかということ、日程がなかなか落ち着かないことへの所感なども伺えればと思います。

【市長】 事務執行をしていく上では、これまでもそうですけれども、なるべく経費を抑えて、そして市長選挙にしても、投票率が向上するということが非常にいいことだと思いますので、当然、同日選挙になると投票率が上がるということ自体は歓迎すべきことではないかと思えます。

2回に短期間のうちで分けてやるというのは、誰にとってもよろしくないことだと思うんですね。この状況の中で人が集まるということ自体もできれば避けたいと思っている。自治会、町内会の皆さんなんか、やはり選挙事務に人を出してほしいということも、繰り返しということになると、やはりそこに負担を思われることというのは当然のことですから、もろもろ考えると、新しい総理には日程を速やかに決めていただきたいというのが正直本音です。

【読売】 ありがとうございます。

《中央療育センターにおける死亡事故について》

【朝日】 朝日新聞です。市の中央療育センターでの2016年の死亡事故について、議会の議論の中で、今、有識者会議が検討している。その有識者会議が虐待の有無について児童福祉審議会の意見を聴くとか、そういう検討をしているというようなやり取りがありましたけれども、虐待の有無についてということになると、今までとちよ

っと局面が変わったようにも感じるんですが、市長のところまでこれ、どういうふうに報告を受けていますでしょうか。

【市長】 すいません、まだその報告は私、受けていないので、詳しくは認識していません。しっかり聞き取った上でコメントさせていただきたいと思います。

【朝日】 分かりました。

《救命救急センターの指定申請について》

【読売】 読売新聞ですが、麻生区の総合病院が三次救急の救命救急センターの開設を今、県のほうに申し入れていて、その必要性の有無について、地域医療構想調整会議で議論が行われているんで、なかなか利害関係者が集まる議論ということもあるんでしょうが、一定の方向性、必要性を出しづらいんじゃないかなと思っております。市民サービスの向上を図るべき市長として、どんなふうな議論を期待しているのかというのをお聞かせいただけませんかでしょうか。

【市長】 確かに利害関係というのをこれまでも議論してきたという経過は私も報告を受けていますが、これ以上お話ししても、正直、地元でみんな同じ地域で医療を提供しているので、ある意味、日頃は協力し合って地域の医療を支えている人たちが、あまりそこで利害の話をしていくというのは、僕は好ましい状況ではないと思っています。そういった意味で、これは県が決定するところですから、そういった意味では、県のほうでしっかりと決めていただく必要があると思っています。

【読売】 県としては、その会議で必要性を認めないと、なかなか議論が先に進めないというような言い方をしているんですが、必要性の有無を含めて知事のほうで決めてほしいということになるんでしょうか。

【市長】 というか、この病床の話というのは、御案内のとおり、利害が非常に関わってくるテーマを地域のところだけで決めるというのは、一定の無理があるのではないかと考えています。そういった意味で、川崎市でもう決めろという形であれば、その権限というのはしっかりと市のほうでやるべきだし、でも、県の権限ということであれば、県の責任でもってやるべきだと思います。

【読売】 では、その運用について、県にこうしてほしいという申入れみたいなものを市から……。

【市長】 市からというか、川崎市の医療構想会議、名称はちょっとあれですけども、そこの中の議論をしっかりと、どういう形でお示しになるのかちょっとまだ最終的には聞いていませんが、県のほうにしっかりと伝えていくということが必要だと思います。どんなことを議論がされているのかということ、全く丸投げではないです

からね。せっかくこれまで議論してきたことですから、その内容というものをしっかり県のほうに伝えていくということは、地元としては必要なことだと思います。

【司会】 どうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312